石櫻新聞
発行所　盛岡市仁王田園　岩手高中学校　出版委員会新聞部
印刷所　岩手新報社

充実した委員長報告
生徒総会開かる

去る二月六日午前十時半より高中学生計八百二十名参加のもとに石桜会規約による昭和二十五年度下半期石桜会総会が招集された

この日教師団はその約半数がオブザーバーとして出席、関係各委員長も全員出席した、本総会は第一回及び第二回に比較して十年間の実践の裏付もあるためかすこぶる活況を呈し各委員長の委員会報告も充実しており各委員長の質疑充分であつた

先ず始めに小林副会長の挨拶があり総つて上程議題へ図書館設立準備委員会の常任委員会昇格に関する件」について準備委員会結成から現在までの経過報告を宮手会長から詳細に渡つて説明があり一月三十日の総務委員会において満場一致の賛成をもつて昇格を認めたことを説明した、かくして宮手会長から全会員の諒承を求め、図書委員会の正式発足は全会員の希望するところであつたから異議なく全会一致をもつてこの議案を可決、ここに準備委員会結成以来一年間の野崎委員長、小原会計部長らの労苦は見事に実を結び、旧五委員会と肩を並べて石桜会発展のために力を尽くすことになつた

次いで図書委昇格に伴う会則の一部改正案が上程され改正を見た、図書委設立の興奮未だ静まらぬ時に小林副会長の司会で第二部に入り各委員長より所属委員会の活躍状況等の年次報告があつて同十二時十分散会した、各委員長の報告の概略次の通り

各委員長報告要旨

自治及び自治精神
宮手石櫻会々長

各委員会の細目に亘つての活動状況はこの後委員長より報告があると思うので、私よりは石桜会発展のために、又その基盤として「自治及び自治精神」いうことを中心に簡単に皆と共に考えて見たいと思う、自治あるいは自治精神ということは自己の責任及び自己に課せられた問題を文字通り自主的、自発的に解決することであります石桜会の第二条目的の項には立派にこのことを明記しその進むべき道を明らかにしています。石桜会は生れるべくして生れ、自治と独立の精神にその基盤をすえ、発展の途上にあるのですそしてその中枢となるのはいうまでもなく諸君自身である。どうかその確固たる決断力と自主的自発的行動とによつて、益々我々の石桜会を、はた又学園を輝かしきものとに発展せしむるよう特に諸君の理解と自覚を促すものであります。

社会教育に乗り出す
佐々木学習委員長

学習指導ということは、各学年毎に学習の目標、基準形態が異るので統一的な仕事の実行が仲々困難である、殊に現在までのような学級単位の一名ずつの委員では学年単位の指導も困難であるので委員の増員を計画し実現を見たばかりである、今後は模擬試験や放送施設を通じて文化委と協力し、社会教育の実施にも乗り出したいと思つている。

困難な"指導"
大和生活委員長

とかく販売部の仕事に精力を費し勝ちであつたが、下半期からは全会員の校内生活の指導にウェイトを置き、本来の性格に立ち還りつつある、我々自身欠点の多い学生であるので指導という仕事は仲々困難であり、種々の批判も受けたが会員諸君の絶大な協力を得て大分活発に動き得たことを感謝する校内における礼儀作法につき指導目標を各ルームに掲示して実施を目論んだが余り結果は香ばしくなかつた、諸君の一層の注意を要望して止まぬ。

現在の儘存続
川村出版委員長

出版の仕事はある程度趣味がなければ出来ないものであつて、現在までの委員選出制では新聞発行等の運営上種々不円滑な点が少くない我々の運営上の障害を除く為に他校の委員会制度を研究し、昨年十月に出版委員会のもとに新聞部と会誌部を新たに設け、同好者を募り発行の衝に当たらせた、委員会は純然たる出版に関する統括、査察機関として現在のような形態のまま存続させるつもりである。新聞は発刊以来未だ一年を経ぬが既に第八号が出版され今又第九号が発行されようとしている、これは三年の歴史をもちながら今尚第九号しか発行していない盛岡高校新聞に比して如何に迅速に円滑に仕事が行われているかを実証していると思う、これは本校PTAの御厚意による点も大きい、感謝にたえない、会誌は資金難であつたが漸く卒業式前には発行出来る運びになつた

來年はもつと充実
姉帯文化委員長

今年は文化部としては昨年に比し大きな活躍をしたと思つている、郷研部の欧切沢遺蹟研究、博物部の五葉山における植物の研究、音楽部は予選会以来、芸術祭に春の音楽祭にそしてQGの放送にと大童な活躍をし、演劇部も又芸術祭を始めとし市内高校演劇発表会に出演し多大の成果を収めた、中でも川村君が学校創立以来最初の弁論大会優勝をかち得、岩高弁論の名を輝かせた、来年は現在以上の充実を見るであろうことは疑う余地もないと思う

各部早くも練習開始
斎藤体育委員長

昨年は総合で第二位であつた体育も今年は優勝旗を一本も持ち帰ることが出来なかつた、真に残念である、然し不運にめげることとなく各部は早くも来年に備えてトレーニングに余念がないから、きつと優勝の太陽が我が校にほほ笑むであろうことを信じている、不運の中にあつて一人体操部は全国大会に小林、斎藤が出場し体操岩手の名を轟かせた、その他籠球部、排球部、水泳部なども今一歩で優勝という所まで来ていたのである

勉学は図書室から
野崎図書委員長

ただ今皆様の総意により、準備委員会だつた図書委員会も正式に委員会として発足することになりました、学生と図書、勉学と図書それはいうまでもなく表裏一体の関係にあるものであり、学生と図書はどうしても切り離して考えることが出来ないものです。本委員会は一年間の準備期間を終り、次年度からは益々その運営、図書の拡充に努めるべく、その仕事にたずさわる有能な委員の人選を急いで居ります。全員諸君は今後とも勉学の必須品として、またいこいの場所として、あの図書室に集り共に図書の利用に努めて下さい。

寄稿
集團的愚鈍性
吉見正信

シラアの二行詩に「だれでも、ひとりだけに切離してみると、非常に賢明で解りがよいけれど、それが集団化するとたちまちのうちに愚鈍性を発揮する」と謂うのがある。それと同じ様な意味のことが、ハアバアド・スペンサアやニイチエなどによつても、集団的愚鈍性として、色々手痛いまでに指適されている。

これらは、何時、如何なる場所の、如何なる集団や、大衆の性に賦いても、ある点でそれが全く言い得るものである。こう謂つた問題には、おのずから我々は、直立する壁に対するが如くに、一躊躇せざるのを得ないものを覚える。それは、果して自分はそういうものの内性を拒否できるかどうか、と自問するが如くに。

然しながら、このわずかの躊躇の間に、自分という人間一個の全体を知覚し、シラアの言つている様な賢明の場に立つ個人に結構なり得るわけである。だれに頼まれるわけでなくとも、ただ自分として立ち得る場、実はこの場こそ、我々が一番大切にして守らねばならない個人主体の場ではなかろうか。そしてまた、それが集団の場で守られねばならない最も大切なものであろう。

ここで引用する語としての、集団とか大衆とかいうものの習性には、非緻密、非敏速による非実践の曖昧さが、完全に附着し充満し切つてるとさえ言つてよい。唯、これだけ断言していながらつい覚える錯覚が私には一つある。それは、如何にもうまいなる愚鈍性の中においても、恐らく、いや確かに、その大部分の愚鈍なそういう集団場の習性に対抗し、密かに知性の涙を嚙みしめて、その場に臨んでいる一つの存在がある。そしてそれどころではなく、集団員の騒の中に全部を一時に覗き見ることができたら、その一の存在が全部に当てはまらないことはないと空想する。だがこんな空想は、錯覚としても早計で、やはりその前に初掲のシラーの二行詩が再び浮ぶ。即ち、密かに思つているという一の存在は、所詮、詩中の一ひとりだけに切離してみる一の存在に他ならず、密かにでなく、全体のままで知性を発揮できない愚劣さの存在に他ならない。私としても、これだけ集団的愚鈍性の表裏が解つた心算りになつてみても、やはり、どうにもならない集団の性が、ひたすら悲しまれるものである。唯、この新聞に寄するに当つて、何か憂鬱すら覚えて耐えられない。それというのも（せめて学生の集団に就いてだけ、この語から除外したいばつかりに。

集団というものの本質というか性格が、かつての数々の学生運動や、また講堂などに集る時の中学生にも多少認められる。たとえ多少にもそう認める私が間違つているのかどうかは知らない。またそう認める私は笑われるかも知れない。だが私は、より以上の知性の高さを学生という集団に求める所以から、決して笑われることを懼さない。

集団的愚鈍性。何かこの語から腐敗物の上をうようよ這い回つて行く処を知らないウジ虫を想起する。想つただけでも、この不潔さに身振いを覚えるではないか。どうかして学生の集団だけは、この語から除外したいものである。またやつて出来ないことはないことが、学生としてのプライドのかけがえなさではなかろうか。

一九五一・二・一九

会長に藤田金蔵氏
PTA総会開かる

藤田新会長

二月十九日午後二時より昭和二十五年度最後のPTA総会が約百名の父兄参集の下に講堂において開かれた、当日の議題は二十六年度PTA役員選挙の件であつた、先ず司会の山中先生によつて経過報告があり次いで役員選挙に関する件を審議、その結果次の五氏がPTA役員として承認された

会長　藤田金蔵
副会長　村田岩人　川股武雄
書記　菊池惠大
会計　赤石久太郎

また会計監査役は昨年と変らず次の三氏と決定

佐々木嗣一　藤田喜平　長沢専次郎

準議後新会長及び副会長は次のようなあいさつを行つた

藤田新会長「今回はからずも皆さんの推選によりPTA会長となりましたことは私として実に感がい無量であります、皆さんの御満足出来るようなことをやれますか否か分りませんが最善をつくすつもりです、皆さんの御忠言、御指導をお願い致します」この選挙終了後山中先生は父兄に対してパチンコ屋への出入りは禁止している、市の条例でも定まつているから注意して出入りさせないよう、また自転車事故が多いから気をつけさせること等の要望があり中学校生徒によるレクリエーションに入つた、これは予せん会当日に行つた劇「百花村物語」「四辻のピッポ」の二つを上演したもので万場の拍手をあび、なごやかなふん囲気の中に午後四時半散会した

來年度発足確実
盛り上る放送熱

演劇部では校内放送設備が出来たので放送劇研究グループを作り来年度には二週間に一回位ラジオドラマを放送したい模様であるが、同様音楽部でもレコードを選択してこれに解説をつけ現在のNHK音楽の泉と同じような放送や、部員による合唱、独唱、独奏などを計画している

このように学校内部の放送熱は次第に高まりつつあり山中先生の構想では「放送委員会をつくる、それには来年度までを準備期として他校を積極的に視察調査し、一応の訓練をしておき、来年度から正式に委員会として発足させる」と言うものであり、これに対して八重樫副会長は「委員までもつて行かなくとも部で大丈夫、来年発足は確実だ」と語つており、生徒間でも同様委員会か部かと言うことが論議されている

又放送室移動については演劇、音楽部とも独立した放送室設置を希望しており候補としては応接室が上げられている

一層の自粛を要望
教務・生徒指導声明

二月九日全校ガイダンスの席上山中教官は「生徒の服装に関する告示」を行つた。これは市内各高校において一斉にとられた措置に準じ、市内高校生活指導協議会の勧告に基づいて、本校の教育方針に沿つて発表されたものである。

告示……一、オーバー及びジャムパー等の教室内における着用は認めない。職員室における時も右に準ずる。

一、首巻きの派手なものは着用を許さない。

一、マフラーの着用は認めない

第三回卒業式
…螢の光窓の雪…

第三回岩手高校卒業式は三月一日午前十時より来賓、父兄多数が参集して行われる、卒業生は百二十四名で、当日は生徒代表や来賓の祝辞、父兄の謝辞などがある

なお第三回中学卒業式は来る三月二十日講堂において行われる、卒業生は九十五名

つい立てを寄贈

昨年の卒業生は幻燈器を寄贈して視覚教育向上の一助としたが今年は稀、つい立てのうち学校当局の希望によつて鏡付のつい立てを寄贈することに決定した

岩大志望圧倒的

卒業式を数日後にひかえた高三生百二十四名はある者は上級学校へある者は実社会へと巣立ち行くわけであるが——

▽進学、総数八十九名が上級学校へ受験する、やはり岩大が圧倒的で後は早稲田、東北、中央などである、学校別に見ると

岩手大五十二、早稲田大九、東北大五、中央大四、福島大二、慶応、農大、都立大、工業大、東北学院、立教大、日本大、理科大、大正大、千葉大、駒沢大、明治薬科、横浜市立大、東京教育、商船大、東京水産、国学院大、神戸商各一名となつている

このように志望校は岩大から横浜市立大、神戸商にわたる広範囲なものである

▽就職　決定した者は岩手殖産銀行二、無尽二、国家警察一、東京国税庁一、公務員四それに自宅で家業手伝いが四名となつている、残りの者十九名は各地に家庭の手づるを求めたり、先輩をたよつているが公務員試験、雇員試験、助教論、税務署、郵政省などを狙つている

少いアルバイト

今冬アルバイトを行つたものは僅か五、六名、それも長期間でなく殆どが三日間から一週間位なもの仕事先は縁故をたよつたのが多く高二某君は本校PTA会長村井源三氏宅で三日間アルバイトを行つた、なおこのアルバイトについて日本奨学会が調査したところによると「殆どが学費にしていている彼等の健康状態は余りよくない、疲労が重なり勉強の方がおろそかになる」との結論に達した

コンクールに出品

岩手新報社主催第二回学校新聞コンクールに本校からも石桜新聞を出品した、発表は来春早々の見込み。

來春からPTA欄

新聞部ではかねてからPTAとの連絡を強化するために種々協議していたが、これがこの程ようやくまとまり、その結果来春から石桜新聞にPTA欄を設け学校、父兄生徒の連絡を密にすることにした

教師個人消息

新潮社編集部に行かれる佐藤桑六郎先生の離任式は二月十四日行われた。なお東京には二月十五日午後五時四十分の列車で行かれた。

HR便り

【一甲】修学旅行積立金を三ケ月前から始めており一ケ月百円で、すでに三百円貯金している。行先希望は北海道が多く松島などがこれに次いでいる　(M)

【二乙】十五日ころ教室にあつた戸棚が何物かによつて破毀され、自治会を開いて調査したが犯人が現われず結局クラス者の連体責任とした　(M)

【二丙】毎週のように金曜日のガイダンスの時間には今度の夏休みにはどこへ修学旅行に行くかということを討議している。現在までは北海道あたりが第一候補となつている　(K)

【三甲】三甲では一先づ中学を卒業するので他へ転校する十一名の送別会を兼ねて三月二十日にクラス会を開くことになつた　(H)

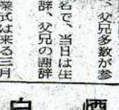
【三乙】冬季休暇後戦後靴あるいは上靴の紛失者が数名に昇つた為今度から高価な靴をもつている者は教室に持つて来てよいことに決定した　(K)

【一B】二月十七日クラス会を行つた。小野寺先生を囲みパンをつまみながら順番に隠し芸を行い最後に校歌を合唱して楽しい一日を過した　(D)

【二A】修学旅行実現に積極的に乗り出すことにした。現在希望者は三十人以上おり先日山舘君などが調査した結果関西方面に三千円余りで行けること—但し交通費丈—なお三千円以上貯金している者は五名以上に昇つている　(H)

【二C】クラス会を二十四日に行つた◇修学旅行希望者は二十七名いる　(N)

白煙



例の暴行事件が国会で問題にされたところは東京に行つて、何処から来たのですか?と聴かれることが一番苦痛だつた。東京の人々が、そんなことは一々憶えていませんよと、慰めるつもりか、あつさり片づけて了うが、それが却つて苦痛を増す結果となつた。学生の都として東北有数の盛岡から、一挙に不良学生の都盛岡に転落したのである。恥しい話である。

幸我岩高からは、関係者を一人も出さずに済んだが、だからといつて、のほほんと決めこむことの出来る問題ではない。不しだらな生活をする学生の多いこと、夜歩きをする学生の多いこと、喫煙する男女学生の多いこと、これ等が盛岡で偶然と見すごされて来たということに一驚せざるを得ないのである。

今更の様に騒ぎたてる教育者の顔は決して名誉なものではあるまいがサボる者、カンニングする者、喫煙する者等をその事実を知り乍ら黙秘を通す学生間の奇妙な、変態的な義理人情の観念が悪を繁殖させ、横行させる原因になつているのだ。一時はうらまれることもあろうし、級友間においても気まずいこともあろうが、HRスポンサーと相談して前後処置を考えることは、結局その人のためになることなのであるから、その様な態度への道に足をふみ入れかけた者を見つけた時は、ためらうことなく直ちに、卒直にHRSに届出て相談し、その蝕まれる学生を、悪の道に深入りさせぬ様な措置をとるべきである。優柔不断とか、妙な義理人情的観念等は例え悪意がそれの中に含まれたものでなくても結果において、決してよいことではないし、その人にとつて為になることでもない。真の友情には、悪に対しては断固たる指弾を以て改心した者に対しては暖かい交際をもつてする様な態度が必要であることを我々は知らねばならぬ　(K)

今年一年を顧みて

"岩高の傳統"をつくれ
、よくやつた高三の諸兄

近く高三生百数十名を岩手高等学校第三回卒業生として送る。中三も同様第三回卒業生となるわけであるが、今年は石桜会活動の基礎固めをした年であるだけにこれら諸兄は相当苦労をして生徒会の活動に当つたことと思う。そこで各委員長及び今年活躍した部のキヤツプテンを招いて高二総務委員の司会により「今年一年を顧みて」という題のもとに座談会を開催した

出者席

【高三】宮手毅（会長）川村洋一（出版）大和照男（生活）斎藤勉（体育）瀧村和雄（文化）小林毅二（体操）近藤義彦（演劇）中村八郎（籠球）
【中三】斎藤裕（総務委）北田一平（野球）
【高二】八重樫昌宏（総務委）浅沼俊昭（〃）本吉正夫（〃）金沢壽（〃）佐々木晃（〃）

應援團あれこれ

八重樫　今年をふり返つて見て印象に残つたものはなんですか。
宮手　応援団復活、五日制実施、団書委員会昇格など
浅沼　では応援団のことから
野崎　設置当時高二と衝突したことがあつたなア、逃げた奴が英雄みたいになつていた（笑）
八重樫　あの時高二を土下座させたのはひどかつた
野崎　感情的になつていたんだ、なぐるわけには行かぬしどなられぬしずい分むずかしい（笑）
近藤　応援といえば夏の高校野球県予選を思い出すね
八重樫　日報に盛岡の早慶戦と書かれていてユカイだつた
川村　あれを毎年盛りあげて行けば盛岡名物になるぜ
金沢　そうだ、今年も大いにやろう
小林　然し岩高はネバリ気がないあの野球（大会予選）の時もだつた
八重樫　円子さんが崩れたのは女学生の黄色い声援で上つたような所もあるんじやないかな（笑）
佐々木　いやあれは内部のエラー続出のせいだつた
野崎　くやしかつたな
川村　然し彼女らは白梅娘とは思えない下品な野次をとばすね
瀧村　その点岩高応援団は評判がいいよ
斎藤（勉）中学の方の応援にも行つているのか
北田　中学にはほとんど来ていない、応援で敗れるという事もあるから是非来て応援して欲しい
大和　そうだな中学の応援にももつと気を使う必要があると思う
野崎　この問題については僕もすまなく思つている、来年こそ立派な石桜会応援団として活躍してもらいたい
本吉　応援団も予算が必要じやないかな—
野崎　必要だね、それから応援歌詩についてはもつと考える必要があると思うから下級生諸君は積極的にこの問題と取りくみ改善してほしい。

多過ぎる十四部

金沢　体育委員長どうですか、この一年を顧り見て—
斎藤（勉）一番口惜しいのは優勝出来なかつたことだ、優勝旗を一本も獲得出来なかつた。
近藤　昨年の選手がぬけたから—
本吉　主要人物が一ヵ所に集中されているからだ
瀧村　然し一応決勝までほとんどが行つているんだろう
斎藤（勉）四百人に十四の部は多すぎるね、入れば皆選手になる
浅沼　頭数が少いのが痛手だ
八重樫　話をかえて会長の雑務が多いようだが
宮手　気を使うことおびただしいそれだから部にも入れない
八重樫　この間の予せん会の時自分たちがリーダーになつて見てつくづく高三はよくやつたと思つた
野崎　出版委は
川村　人数が大過ぎて足りない（笑）選手側は適してないね
宮手　中三のところから関心をもたせて指導すれば良いと思う
川村　そういう点演劇部はいいね
八重樫　まとまつている
浅沼　予算の請求もうまい（笑）

不合理な部費決定

大和　さつき予算の話が出たが—
八重樫　一般に部費決定の基準が不合理だ
宮手　確にそんな点がある、前年の成績で決定されるのは不合理だ、然し今の所他に適当な基準がないから止むを得ないだろう。
近藤　現在の様では強い部は強くなり、弱い部は増々弱くなる様な危険がある。
中村　そこで一番感ずるのは伝統の重みがないことを言う事だ
齊藤（勉）伝統があつてもラグビーは抜けたぜ
近藤　研究心があるからだ、それ無駄な人がいない、皆必ず何かに仕事をしている
野崎　英語劇もなかなか面白かつた
近藤　英語が出来ても芝居ッ気がない、芝居ッ気があつても英語がだめ、それがマッチすると良くなるんだが、今年は中三の岡田、原達は演劇部員だつたので芝居ッ気、充分、それに英語も優秀だつたし……
小林　他校のラグビー部は相手をのんでかかるそこに強みがある
齊藤（裕）その点中学は上級生と言うものがあるから惠まれている
北田　そうだ
宮手　一般に岩高生はおとなし過ぎるよ、討論会の時などもそれがよく分る、いつそのこと岩手の慶応と言つたタイプになり切ればいい
本吉　現在ならなり易いね
川村　そこに学校の特徴と言うものを作れば素晴らしいと思う
佐々木　今高二で長髮が問題になつているが諸兄はどう考えますか
大和　伸さない方がいいね
川村　在校中は丸坊主の方が伸している学校の生徒より気持が良い
齊藤（裕）卒業すると伸すか
中村　殆ど伸ばすと思う

やりたかつた事

金沢　今年やりたくてやれなかつたことを順に話して下さい
野崎　読書会を作くつてくれればよいと思う、図書設備を完備させたいのは勿論、閲覧室もキチンとしたものを欲しい
大和　生活委員会で定めたことを徹定して守つて貰いたかつたあれを徹底させるのは仲々むずかしい、三日坊主は困るね
近藤　昨年三月に部をうけついだ時は移動公演もしたいし、校内の放送設備を利用しラジオドラマもしたかつたが放送の方は設備が出来ずやれなかつた定期的な放送でもするなら独立した放送室があればよいと思う、放送は今のところ余り利用価値がない演劇部の宣伝だけで（笑）
宮手　各委員会にも少し大幅な権力を与えて欲しい例えば各委員会独自に活躍の為の規約を作らせるとか又役員のバトンタッチを一月とか十二月にすること
瀧村　文化部は上級生と下級生の連絡が余りとられていない、もつと本校生は文化活動に理解をもつて欲しい
川村　出版委員会としては予算人員、顧問の三つが問題だが遠慮せずに使える部屋も欲しいしPTAとの連けいをもつと緊密にしたかつたと思う。大体の点でわれ我は満足す可き点に到達したと言えるだろう。
齊藤　校内対抗の競技を毎年春秋に行つてみたかつた、来年は開校二十五周年だし記念祭も大いにやつてもらいたい
齊藤（裕）生徒会、応援団等の活動を中学と高校と分離して欲しい、その方がずつとやりやすい
八重樫　ではこの辺でどうもありがとうございました

第三回岩高卒業生氏名

（五十音順）

赤沢則彦、阿部晋彦、姉帯弘、石戸谷克彦、一戸彦夫、五日市三郎五日市泰、伊藤栄、岩井正、岩瀬博雄、上田晃、上田浩司、上田学牛越侑、内田康右、梅津俊昭、大畑砲、大森誠、岡田豊、小笠原忠小田島昭夫、小田島〇、小野修一小原一二、葛西直和、雌子奨、加藤弘、金沢良和、川村欣治、川村昌司、川村洋一、鎌田忠雄、鎌田之次、菅鴻、菊池清、菊池常容、菊池弘、木村栄作、工藤郁夫、工藤祐彌、工藤裕、熊谷英樹、栗谷川侃司、小泉泰助、小林毅二、近藤義彦、斎藤勉、斎藤宏、佐々木茂隆、佐々木昭一郎、佐々木剛、佐々木久志、佐々木英世、佐々木実、佐々木幸男、笹森清助、佐藤厚郎、佐藤厚祐、佐藤右八郎、佐藤貢介、佐藤信勝、佐藤雅美、栗内興昭、四戸和彦、下田貞男、下山進、杉沢正己、鈴木謙一、諏訪道次郎、瀬田郁夫、瀬川勝敏、鷹觜辰雄、高橋圭治、高橋辰明、高橋利男、高橋正幸、高村哲郎、高山敬一、瀧村和雄、田鎖純、橘夫、谷藤正八、田村幸雄、千葉勝津川昌平、鶴畑勇、栃沢正夫、内藤久平、長岡光男、長塚昂昭、中野晃、中村六郎、中村八郎、中村幸夫、野崎生一、野村進、野村照男、橋本康平、藤井卓、藤尾公一藤原和夫、藤原健蔵、細川公資、細越紀平、松田磐治、松館功良、円子宏、三上美行、宮手毅、村井弘郷、村上旺、村木宏彰、村松茂行、村山武、矢部秀、山崎義孝、山田利昭、大和照男、横沢武美、吉田正平、吉田光政、米沢祐吉、渡辺弘司

級担任
三A　鈴木健郎先生
三B　日野啓潜先生
三C　佐藤恭六郎先生

他校の"放送"をみる
充実している番組

先号の世論調査の結果でも分るように、大部分の生徒は放送部設置に賛成しているが、この放送施設を他校ではどのように利用運営しているか、県内で最も活躍している一つ和賀高校放送局と長崎市のある中学校をのぞいて見ることにしてみよう

昭和二十四年七月に生徒指導の一機関として設置された和賀高校放送局（WHK）では始めお知らせのようなものばかり放送されていたが昨年から今年にかけ一大発展をとげ二十の扉、今週の歌、聴取者文芸などの番組が生徒を楽しませている。機構は

▽企画部　四、五名で新しい番組の企画、プログラム編成を行つている
▽技術部　五名前後でなつており放送毎にレシーバーを耳にして完全な放送が出来るようにしている
▽アナウンサー　今年度は男子アナ一人、女子アナ五人で先日行われたアナ採用試験で男子一名が採用された

大体この三つに分れて居る、それでは局員採用をどのようにして行つているかーこれはすべて試験制度となつている、高三の卒業が目の前にせまつたので先日採用試験が行われ企画部では九名の応募者の中から二名、技術部では二十一名から筆記、面接試験で九名、アナウンサーは七名の中一名が採用された、いずれも二倍から七倍という狭き門で新教育の中に放送ということが如何に重要な割合をしめているかを如実に物語るものである、もう一つ長崎市大浦中学校の例を見てみよう

講堂がないため生徒の指導や伝達事項に非常な不便を感じたところから昭和二十三年四月、各教室にスピーカーを取付けて連絡したのがそもそもの始まりとなつている機構には次のような部があり和賀高より複雑でほとんど各部に先生がついていることが注目される、技術部（先生二、生徒十）放送研究部（先生六）企画、記録部（先生一、生徒三）学級代表放送委員（各学級男女二名）演出部（先生二、生徒五）音楽部（先生一、生徒四）放送劇団（先生二、生徒十）学校当局も一週間に三回、一回三十分、NHKの学校放送を授業の一部として取入れ正しい標準語の発音、練習などに役立てようということになつたが、さらに校内でも音楽教育に、あるいは生徒の研究発表に生徒が代る代るマイクの前に立つて放送している、コールサインはO・J・H・Sでアナが朝礼の時刻から放送を開始している、プログラムは校内ニュース、解説、映画批判、教科書のドラマ化したもの、教養的な話、自治会の発表朗読、レクリエーションとして二十の扉、のど自慢、話の泉、名曲鑑賞などもしている

放送を真に身につけて教材としようと努力しているこの学校では更に設備の改善を要望しているが相当の費用がかかるのでとても改善など出来ないと学校では嘆いている、これによつて得た成果をはつきり指摘することは困難だが、今まで引込み思案がちの生徒が快活になり積極性を増して来た事実は見逃せぬ成果ということが出来ると当局者は語つている

明年度主将予想

新年度をひかえ各部とも事務引継ぎに大童であるがキャップテンには次の諸君が選出されるものと予想される（O）

【文化委員会】弁論部浅沼、科学部照井、博物部？ 郷土研究部荒浜、美術部藤沢、音楽部山舘、映画部村上、演劇部東、英語会話部高橋

【体育委員会】陸上競技部西野、水泳部高橋、庭球部木下、籠球部加藤、排球部上川、野球部（硬）小笠原（軟）菅原、体操部小森、ラグビー部本吉、山岳部佐藤、卓球部小沢、ハンドボール部岩淵、スケート部北田、スキー部亀山、ボート部後藤、中学野球北部田

應援歌詩募集

応援団が発足して一年になろうとしている。現在の応援歌は中学を対象して作られたものであり、高校には一寸不適当な感じを与えるそこで左の様式で応援歌の歌詞を募集する。

◇応募規定
一、高校、中学を一緒にし本校の特色を充分に考えて作ること
一、清新発溂なものであること
一、歌詞の長さは限定せず
一、資格は卒業生、在校生のいずれかなること
一、原稿用紙を用いること
一、〆切、四月十五日
一、宛先　出版委員会新聞部
一、賞品　一等、二等各一名に相当の賞品を贈る

採用された歌詞は生内先生に作曲を依頼する予定、奮つて応募されたし

石桜会　応援団
出版委員会新聞部

図書委活動開始

去る六日の生徒総会によつて昇格を正式に昇任された図書委員会は早速高三から高二に事務引きつぎが行われ活発な活動を開始した引きつがれた二週間余りは図書の整理、修理で大童であつたが現在は一応落ち着いて来ている、一日の貸し出し数は約五十冊でいくら新品でも二ヵ月位でキタナクなるという状態で係は嬉しい悲鳴をあけている

体育文化展望

体育委員会

体操部　本校体育部の中で全国に名を轟ろかした唯一の明星であつたがその原動力となつた小林（全国大会に於て第六位）と斎藤（勉）（東北大会に於て総合第三位）が今春卒業するので全く惜しんでも余りあるものだ。両君はこの他に団体に岩手チームとして参加第三位に入賞して大いに活躍した来年度のホームは高二小森で県の個人優勝は確定的、村上、佐々木斎藤等は実力は未知数であるが伝統を守つて奮闘するだろう

籠球部　この部も相当活躍した部で各大会共決勝に於て盛岡高に惜敗している。主として活動したのは今春卒業の菊池、中村と高二の加藤、河村、村田等で来年度はこれに高一の吉田、高田等数名を加えてメンバーを構成、優勝を期待される部である

排球部　姉帯、佐藤の前衛コンビや渡辺、佐藤（拓）菊池等の中、後衛陣が今年度大いに活躍したが卒業するのでこの部に今年以上の成績を望むのは無理だろう川上、谷藤と中学から加わる白張等がどの程度活躍するかが運命は決しよう

ラグビー部　去年久保田等の名プレーヤーを送り出し、今年度は余り振わなかつたが佐藤、熊谷あたりが好技を示していた。来年度は熊谷、藤沢、本吉、上田、鈴木等が相当活躍するであろうから優勝候補のうちと見て良いだろう。

硬式野球部　今年度は円子の一人舞台といつた所、若手選手が多く守備面で脆さが見られ勝てる試合を失なつていた。来年度は小笠原、阿部、小舘根、石川等に期待されるが清見がどの程度に投げるかが優勝の鍵となるようだ。

水泳部　今年度は栃沢、佐藤、村井が気を吐いたのみで一般に低調であつたが来年度は村井、高橋、藤村等が再び岩高水泳部の名を轟かせるだろう。

軟式野球部　今年度、活躍した千葉、野村等が抜けるが大した影響はない模様で福田、菅原、金子、藤原等に期待がかけられる

ハンドボール部　レギュラーの四、五名が卒業するが岩淵、阿部、佐藤、小野寺等が頑張つているから相当良い所迄行くだろう

陸上競技部　全く意気消沈の様だつたが西野、田村、高橋、岩脇等が頑張つており相当の期待がもたれよう。

卓球部　今年度は三年の選手が無く高二の村上、小沢、高一の下河原、泉沢等が活動したが来年度もこのメンバーに変更がないから相当良い所迄くい込むだろう

山岳部　高三佐藤、津川などが四ヵ城、朝日連峰を征服したのを始め各地を踏破、今年は佐藤三浦、千葉などの活躍がみもの

テニス部　昨年レギュラー全員卒業で今年は無活躍、一寸試合をしたらしいが惨敗、木下が残つているが全然未知数である。

ホッケー部　日光大会等に出場して対外的活躍の範囲は広かつたがあまり香ばしくなかつた来年度は北田、立花、高橋、梱本等が主力となつて県の優勝はほとんど確定的

スキー部　亀山が今年に引続き活躍するだろう他の選手は未知数。一部には廃部の噂もある。（佐々木剛）

文化委員会

演劇部　角掛先生、佐藤伸夫を失つたが高三近藤、佐々木、中村を主体として東、大山、岩崎泉沢などが活躍、最近秋浜が入部異色をはなつている。中学では岡田、原、鈴木などが好演、卒けるのは近藤、佐々木、中村だけで来年度が期待される。スタッフの方では大和、田鎖、上田、小田島とごつそり抜けるが藤沢、箱崎が後を受けつぐので心配はない。

弁論部　今年第一の収獲は川村が市内高校弁論大会に一位を獲得したこと、高二の浅沼、上川、高一の箱崎は余り良い成績を上げなかつたが県下で二位を得た中一の村松の今年の活躍が見もの。

郷土研究部　青森県下北半島の吹切沢遺跡調査が主なもの、小林先生を中心に瀧村、大和、工藤、荒浜などが研究に専念、今年は荒浜、八重樫などが主体となつて研究を行うだろう。

音楽部　柳舘先生を迎えて年越らが活躍、今年は余り対外的に目立つた活動をしなかつたが来年度のため大きな業跡を残した。来年度は山舘、村田、たかのはしなどの活躍に期待される。中三岩岡のピアノはうま味があるが転校するとの話、惜しいものだ。

英語会話部　利田、佐藤、細川の三先生を主体として発足した英会話部は高校よりも中学の活躍が目立つていた。高校では藤原栗谷川などが卒業高橋、山舘、伊藤、八重樫がはり切つている。中学では県下学芸会で「四辻のピッポ」を上演一位を獲得、今の中二に期待される。

美術部　やるやるといつてついに展覧会をやらないでしまつた。ホープ上田が卒業藤沢、本吉などが小笠原先生を囲んで来年こそは必ずやろうと話し合つている写真方面は全然無活躍、ひとふんばりを望む

博物部　映画部と共に廃部をうわさされている。今迄の活躍が余りにも貧弱、村山が卒業すれば後がどうなるか、高二に適当な人が見当らぬ。

映画部　佐藤恭六郎先生を送つて来年度はどうなるか不明、今年の活躍も切符売り以外の何物もなく廃部のウワサしきり、田村が主体となつて動いていたが高二村上がのこるだけである。

科学部　昨年は水の研究を行つたが阿部先生を送り不活発になつた。好きな者が放課後二、三人で実験などを行つている丈でラジオ班、気象班などは停とん状態照井、中沢、福田などが今年活躍するものと思われる　（大矢）

寄宿舎探訪
樂しい会食
つらい六時半

学校やけやけ
寄宿舎こわせ
舎監コレラで
死ねばよい。

之はかつて全国的に流行した寄宿舎節の一節であるが、この唄から受ける寄宿舎という印象は余り愉快なものではない。我々記者一同、少からずビクつきながら、探訪えと出発した。

中津川の川沿いに水の清くなるにまかせて上流へと逆のぼると、文化橋と称する、およそ文化的風感とはほど遠そうな橋に到達することが出来る。そこから程近い所に岩中寄宿舎と書かれた古い標木があつて、そのすぐそばに、二階建のさつぱりとした寄宿舎がある。

玄関に立つて、大声で案内を請いながら、記者の目は素早くあたりをじろじろとねめ回す。玄関のコンクリートの上には、下駄、長靴がそれぞれ二足ずつ、キチンと並べて置いてある。目の届くかぎりの廊下もピカピカと艶光りをして居て、ちり一つない清潔さである、到底そんじよそこいらの寮では見ることも出来ない様にキレイに掃除されて居て、不潔な、ダラシのない寄宿舎を予想して行つた我々の予想は見事に裏切られてしまつた。

日曜日の午後なので、丁度みな外出してしまい、舎内にはたつた四人しか残つて居なかつた。案内された部屋は下の二号室、八畳間に二人しか住んで居ないというから、世の住居難など何処吹く風といつたゆとりのある生活である。

現在寄宿舎に居る人は十二人で寮は二棟十五室の寄宿舎だから一棟は完全に空いて居るという訳である。空いて居る方の一棟には集会所と称する大広間があり、ピンポン場になつて居る。応接間、貴賓室等々、見れば見るほど、よく整つた所である。

舎と舎監先生の家との間に平家が一棟ある。食堂及び調理室、そしてフロ場等がその中には備えられてある。二階建の家は午後の陽差しを受けて、外は凍りつく寒さだというのに、ポカポカと実に暖かい。居残りの四人はテキパキと記者の質問に答えてくれたが、こんなにハキハキして居るのも、礼儀が正しいのも寄宿舎生活をして居るおかげなのだろうか。

◇

一通り舎の内外を写真機に収め終つて二号室にもどつて見たら中学一年のSとHの二人が将棋に余念がない、これも舎の備品なのだそうであるが、この他レクリエーション用としてバドミントンも一式そろえられて居るという。

以下記者とこの四人との一問一答である。

…舎には何学年の生徒が居るのですか？。

…中学一年が三人、三年が二人高等学校一年が五人、二年が一人三年が一人です。

…どうです、上級生は威張りませんか。

…全然威張りませんね。まるで同級生の様な交際をして居ますよ上級生も下級生を呼ぶときは、必らず"君"づけで呼びますね、他の学校で噂される様な"説教"なんて一度もやられたことはありませんか。自分が悪ければどんなに年下の人にでも進んであやまる。これが寄宿舎の実体ですよ。

…一番楽しいことは？。

…会食ですね、一学期に必らず一度はありますよ、全員一室にそろつて、ご馳走をテーブル一杯に並べて、先生も御一緒に、たべたり唄つたり……。

（どうやら喰べることは、若い者にとつて第一の楽しみらしい）

…御飯は足りなくありませんか

…さァ、足りないと思つたことも別にありませんね、朝はつけものとおみそ汁、たまに納豆等がつきます。おひるは魚類、夜も魚その他何かの煮物とおみそ汁、時々ライスカレーもあります、別段不服はありませんね。おまけに寄宿舎にいると好き嫌いがなくなりますから、ためになりますね。

一石三鳥の寮

……あなた方の世話をする方々は

……炊夫さんが二人舎監の戸島先生と戸島先生の奥さんの四人です戸島先生はおつかないようでいて自分のお父さん以上に優しいですね。先生程さつぱりしていて、親身に心配して下さる先生はちよつとありませんね。そうそう戸島先生の奥さんも、ずい分めんどうを見て下さいます。風邪でもひこうものなら、なそれこそ大変心配して親身も及ばぬ看病をして下さいます。炊夫さんは、どじようや雑魚とりの名人ですよ、古くからいる人で、とても愉快な人です。これは内緒ですけれどね、洗たくものも時々炊夫さんに手伝つてもらうことがあります。

（あんまり良いことばかりなので一寸聞くと噓みたいだが、寄宿舎に遊びに行つたことのある人ならみんなこれを事実であると認めるから、噓ではないだろう）

……それでは一番辛いことは？

……朝早くおきること。

（若いものは寝坊である。早いといつても普通の日は六時半、土曜日曜は八時だから、別に早いわけでもなさそうである）

地方から通学する人や、出て来て下宿する人は、みんな汽車代が高かつたり、下宿料が高かつたりで、仲々親も大変だが、寄宿舎に入れば、すべてを含めて、経費は一人当り千七百円以下とのことであるから、他所の下宿に比べると約半額、おまけに静かな所なので別段小遣を多くつかうわけでもなし、規則正しい生活をすることによつてしつかりした人間を作ることにも役立つし、また毎晩六時半から二時間の自習時間を守ることによつて、幼い一年生時代から勉強するくせをつけることにもなるので、寄宿舎に入ることは一石二鳥どころか一石三鳥ともなるわけである。英国の厳格な学校では、必らず一年間の寄宿舎生活を強制していると聞いているが、日本のいわゆる古い型のだらしない寮ではなく、こゝ中津川辺にある岩中寮のような所こそ真実、成長期の青年にとつては良き発育の温床となることであろう。どうです、みなさん、こゝにお入りになつては？部屋は未だ七つ程空いていますから……。早いものがちというところでしようね。

（文大矢・カメラ中沢）

写真は"同じ釜の飯を食う"寮生の仲の良い面々

"ピッポ"が一位
縣下英語学藝会

県下の各中学校から馳せ参じた男女学生約五十名によつて、本校英語会話部並びに本紙共催の第一回県下中学英語学芸会が二月三日本校講堂で観衆約九百名を集めて開かれた、先づ主催者側を代表として和田先生の歓迎の言葉、更に来賓の代表として岩手大学半沢教授の祝辞があつた、この間、日本語をほとんど聴く事が出来ず記者は恰も海を越えてアチラに渡つたような錯覚を起した程で大会気分は満点、いよいよ各校の練り上げられたアチラ語の発表に移つた。

先づトップを切つて下小路中学の滝川君のスピーチが続いて県内とはいえはるか彼方から、わざわざ来隣した真滝中学の選手のスピーチ他、続々とポエム、ドラマ、ストーリイ等の後続部隊が出場して舞台をにぎわした。中でも加賀野中学の精鋭による楽聖ベートーベンの「ムーン・ライト・ソナタ」のドラマは舞台裏の先生方の熱心な指揮と音楽効果も宜しく観衆を魅りようした。そうかと思うと特別賛助出演として華やかな盛岡市立高のグリー・クラブのコーラスで「谷間の灯頭」や「ジングルベル」のお馴染み深い曲が歌われて花を添えいやが上にも気分を盛り立てた、又興味を引いたもの、中に一つに下の橋中学菊池、大沼両君による「ジヤックの建てた家」というストーリーで挿絵を盛り込んで熱弁に観衆は溺あわれの拍手を送つていた。門外不出を誇る白百合学園のお嬢さん達もあの有名な「シンデレラ」のドラマを熱演して観衆をうならせた。愈々最後に到り本校中学二、三年の有志によるドラマ「四辻のピッポ」の番となり演出の東君や和田、佐藤、細川の諸先生の熱心な指導と出演者の努力が実を結んで大会第一位という優秀な成績を収めた。尚この劇には涙ぐましい挿話がある。それは「歌うたい」として出場した中二の古川君はヴァイオリンも巧く又声も良しという真に適役で無くてはならぬ人であつたが大会前日から熱を出し当日も四十度近い高熱で出場不可能とまでいわれながら無理を押して出場。出演者はもち論、関係者の感激をかつた後日古川君にその時の状態を尋ねた所、熱のため喉が乾いて歌うのにも声が出ませんでした、といつた風でこの熱意は高く評価されよう。この様にして第一回の大会はすばらしい成績を収めて終了したのであるが、大会が終つてからグレゴリー氏から種々の点について評があり、又参加者の記念写真を撮影して最後まで和やかなふん囲気の内に散会した。

学生の誇をもて
内村幸助

射倖心涵養も社会科のうちとみえ、パチンコする学生が後を絶たない。灰色に澱んだ店内は老衰期の空気だ。

一発ごとに腰を低めて球の方向に顎を動かし「ええ、ザンネン」あちこち懐ろを探し求めて「あつたぞ、うわい。最後の生命を賭けん」と力んだ一球カチンコロも「う、う。ダンケルクだい」の悲壮曲。「その辺に球ッコォ転がつてねすか」と汚れた床面にワロワロの眼には、辞書ひく真剣さとは違う卑しげな狐色だ。石川五衛門然のタテ襟学生「ちい、くそ。四百五十円、すつちやつたア」と天井板、何やら暗示的に垂れさがつてるクモの巣をにらみつけた「だから僕がいつたろ、球の重さでバネの角度を加減しなけりやだめだつて」ここぞと連れが（物理）学的ウンチクをかたむけている。

校章が見えないようにペシャンコの帽子かぶつたニキビ鼻氏、もみあげ長いアンちゃんとダスゲマイネ談義にいい気なよう。——いつぱしの不良キドリが、盛岡学生のプライドとは悲しいね。時間の浪費は青春からの失格なんだぜ、君い。（盛岡市十三日町一四二）

相次ぐ盗難
スピーカードロン

二月に入りラジオ盗難事件を始めとし相次いで起きた盗難事件に学校当局では盗難防止に必死になつている。

最初に起きた事件は化学教室で何者かが無断でカギを開けラジオをもつて行つたもの、第二は社会科教材室のカギをかけ忘れた生徒があつたため大判小判等数点の標本が盗まれ、更に十日ころ会議室と高三Bのスピーカーが盗難にあつたもの

この対策として学校当局では調査の結果「これは校外者であるとは思えない。多分生徒のうちだれかが一寸した出来心でもつて行つたものだろう」とし、その者は如何なる方法でもよいから自主的に返還するよう当局では要望している

今度はズックが

二月十六日から十九日にかけズックグツ盗難がひん発被害者総数三十八名に及んだ。即ちこのうち二十名が金曜日家に帰る時自分の下駄箱にズックを入れ月曜日に登校して見るとなくなつていたもので学年別にみると高二9名高一5名中三なく中二3名中一3名となつている。十九日調査した結果このうち高一中二各一名のズックが発見された。また数週間前になくなつたというのが十八名で中二の者の一足が発見されただけ、なお調査の際高三年生約十五名がこの日ズックを持つてこなかつたので他人のズックをはいていたことがわかつた。学校当局ではこれに対し「ズックを毎日持つて帰えるよう」要望している

郵便切手展

全国各地の友の会を通じ相互の連絡の強化を図り交通を盛んにし広く知己を求める「郵便友の会」が岩中にも発足した。これは二月十四日に各地の郵便友の会々員から中三遠藤政治君あて名簿が送られて来てから急に活発化したもので会員は現在中三17名、中二、一各々5名となつており顧問には吉見先生が就任された（入会希望者は中三中遠藤政治まで）

この友の会普及のため十九日から三日間会議室で郵便切手の展覧会を開いたが連日押すな押すなの盛況で特に初日はPTAで来校の父兄も参観し切手に対する常識を深めた。切手にはスイス、アメリカソ連、ポルトガル、アフリカなど三十余ケ国、種類としては国内の各種切手を始めとして変形切手、植物切手など四十数種約千枚があり、陳列されたものは豊川商会、盛岡郵便局、小笠原政治先生、その他有志の出品で、この中には最高一枚数百円もするのがあつた。

各部々員募集

◆英会話部員募集＝希望者は中三中原健まで、高校は二A高橋弦

◆中学新聞部員募集＝希望者は中三乙小林義明まで

◆"郵便友の会"会員募集＝希望者は中三遠藤政二まで、但し中学生に限る

◆ホッケー部員募集＝希望者は高二C中沢まで（五月からトレイニング開始の予定）

◆バレー部員募集＝希望者は二C上川普まで

◆演劇部員募集＝希望者は二A東宏まで

◆ハンドボール部員募集＝希望者は二A岩淵まで

予せん会行わる

第三回岩高卒業生百二十四名を送る「予せん」は去る二月六日生徒総会に引き続き行われたまず学校長より今年度各部の活躍を賞讃、来年度も増々頑張るようにとの祝辞、次いで高二総務八重樫、文化浅沼、体育本吉三君の送辞があり、これに答えて高三総務宮手、文化姉帯、体育斎藤三君の下級生への熱烈な激励の言葉があつた、余興に入り合唱、独唱や劇「四辻のピツポ」「百花村物語」「月の出」が行われ万場の拍手をあびた、かくて午後四時送る者、送られる者の合唱する校歌を最後に予せん会の幕を閉じた

学問と運動は両立

二月中旬来盛した総司令部情報教育局体育課長ニューフェルド氏は附属小学校で行われた"スポーツ懇談会"で学問、運動は両立するかどうかとの問に次の様に語つた

アメリカではそのことについて調査したがその結果、普通の学生と変らないことが判つた、むしろあるスポーツによつて普通の学生よりも成績のよい者もいた、一般にスポーツ選手は成績が悪いという印象を持つているのではないか

事務室より

◇電話を使用する時は必らず事前に事務員に断つてから使つて下さい。使つた後も必らず使用者名簿に記名して、公私の別をはつきり事務員に知らせて下さい。余りルーズにされると生徒の使用を断ることになるかも知れませんから。

◇住所が変つたり、保護者が変つて居たら、HRSにも事務員にも届けて居ない人が大分あるが、その様な時は、必ず変更後五日以内に届出て下さい

◇午後五時以後校内に居残る者は宿直の先生に必らず事前届けをして下さい。未だ履行せぬ人々が大分居ますから…。

◇◇校外短信◇◇

◇お嬢さんにも柔道

四月から学校柔道が中学以上に正科として復活することになつたが、福島県立伝習館高校では全国にさきがけ女子柔道を体操の一科目にとりいれることに決定、話題となつている。ところが男子側は女荒武者の出頭を恐れてもつか反対運動で応戦中

◇あつさりパン十二個

このころぬけ目のないパン屋さん各学校の販売部を通して学校内で営業し生徒諸君に人気を呼んでいるがこれは山形市山形一高での話、広告とサービスを兼ねてアンパン、ジヤムにクリームパンなんでござれ十二個以上その場で食べた人からはパン代を頂かないことにした。ところがそれを聞いた猛者連中次から次と平らげ結局十二個以上をたべたのが二十三名、さすがの名案もパン屋さん上つたりで二日目には廃止

◇弁当の差し押え

税金！税金！と学校の外では毎日お父さん達が首をしめられていますが学校内でもこれに苦しめられている所があります

大阪の春日丘高では生徒会の赤字の財源として長髪税、化粧税、カンニング税、男女交際税それに着帽、上下専用クツ、トラの巻、時間外食事、落書き等の課税がかけられていて滞納すれば弁当の差し押え"助けてくれ、税金"

ギヨ！

◇病気で欠席している友達にお見舞金を出そうと決議した時教室のドアを開けてその病人が現われたというウソのようなホントウの話

◇中学三年乙組の菅原君は冬休み以後感冒のため自宅で療養していたが、これを聞いた担任の吉田長作先生は議長の小林君を呼びクラスでお見舞金を出してはどうかと相談した

◇小林君は早速自治会を開いてこのことを協議した結果一人五円づつ出すことに決定、先生に報告すべく教室を出ようとしたとたん病気が回復して登校した、菅原君とバッタリ出会つた、これを見たクラスメートは偶然？の一致に驚いたり喜んだり、かくて見舞金の方はウヤムヤ（小林）

学校日誌抄録

◇四月
一〇日　始業式
二一日　入学式
二四日　石桜会役員決る

◇五月
八日　五日制始まる
一六日　石桜会応援団復活
二〇日　岩高中体育後援会生る
二四日　私学審議会発足
二九日　開校記念式　芸術祭

◇六月
二六日　前期中間考査

◇七月
一五日　中尊寺秘宝展見学
一八日　クラス討論会
二〇日　夏季休暇に入る

◇八月
[illegible]日　夏季休暇終る

◇十月
二日　後期授業開始
八日　運動会
二五日　校内英語弁論大会
二七日　校内弁論大会

◇十一月
一〇日　石桜会功労章授与式
一九日　放送施設取付
二七日　後期中間考査

◇十二月
二二日　クリスマス音楽会
二五日　冬期休暇に入る

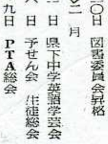
◇一月
二二日　冬期休暇終る
三〇日　図書委員会昇格

◇二月
三日　県下中学英語学芸会
六日　予せん会　生徒総会
一九日　PTA総会

学校行事予定

◇一日　高三卒業式
◇二日　高二以下学年末考査（四日間）
◇二〇日　中三卒業式（未決定）

販賣部お知らせ



次のような品が入荷しています。いずれも優秀な品ですからどうぞ御利用下さい

ノート、便箋、封筒、エンピツ、万年筆、ペン、インク、エリ章、バッジ、手袋（マーク入り）登山帽、ボタン

生活委員会販賣部

元旦詣り

石川信夫

◇　◇

元來元朝詣とは宗教的な意義を第一として居たのであるが近頃はXマスが単なる祝日となつて了つた様にこの元朝詣りも宗教的色彩がずい分薄くなつて来ている。

雪の降る夜半、凍りついた道を元朝詣りに人々が急ぐ。

賑やかな笑い声が迎えた年を寿ぐ様に、シンシンと静まり返つた深夜の街々にこだまする。

元朝詣と言えば、徐夜の鐘を待ちくたびれてこたつにねむて了いくやしいがつたり元朝詣りどころか寝正月を迎えて元朝詣で初詣びを経験したり、もつとも元朝詣で風邪をひいたなどと言うのはあまり自慢にもならないが、とに角一寸した平凡な事でも印象に残るのは、年が明けると言う緊張した気分の故だろうか。

◇　◇

県立H高校の藤川先生と言う人の廓に男女高校生の文芸サークルがあるが、このサークルの年中行事の一つに元朝まいりがある。

徐夜の鐘の余韻が未だ消えやらぬうちに、市の中央にある城跡に三々五々集つて来て、「今年はいろいろ有難うございました、去年もどうかよろしく」と言つた調子でめいめい〃勝手な〃新年のあいさつを取り交す。もつとも藤川先生は四十過ぎた年配の方だから、この初もうでには参加したことがない。

そこで先ず第一に全員揃つて藤川先生の所に夜なかの「御年始」に行き、それから、市内のお寺や神社を一つ一つ巡つて歩くのである。歩くと疲れるし、寒さも寒いのであるが、若い男女が、合唱したり笑つたりしながら歩いている時には少しも疲れなど感じないものである。疲れるどころか元気おう盛途中にもち屋かそば屋でも開いていようものなら、一齊にその店にかけこんでもちをほほばり、そばをすする。年取りのでち走でおなかは一杯の筈なのだが、矢張り若い者だけあつて大福の三つや四つはぺろりと平げてしまう。食べながら話し、話しながら笑う、実ににぎやかなものである。

写真屋の息子が一人仲間の中にいて、必ずフラッシュと写真機をたづさえて、写真をとるのだが、満足にとれたものは未だ一枚もない。撮れないだろうとは思いながらも毎年かならず、カメラの前に一応顔を並べるのである。

◇　◇

新吉はこのサークルでも古参な方であつたが、入つて以来まだ一度も元朝まいりに欠けたことがなかつた。大みそかの晩は、年取りをすませると早く床にもぐりこみ家の人がねるころ起こしてもらつて、徐夜の鐘を待つのが習慣であつたが、これとてもみんな元朝まいりに参加したいばかりのことであつた。

今年は然し師走が近ずくにつれて、新吉は目に見えて元気がなくなつて来た。元朝まいりに、とう底加われそうもないからである。別にいそがしいわけではないし病気でもない。サークルに顔出しの出来ない失敗をやつてしまつたのである。

◇　◇

そのころ新吉は、自分の常軌を逸したデカダンな生活に嫌悪を覚えていたし、又サークルでの自分の才能にも行き詰りを感じていたので、やけくそな気持で頭が一杯だつたのである。その手紙も、結局私離滅裂、自分よがり以外の何物でもなかつたから、結果はすぐに手痛い反動となつてはね返つて来た。俗にいう「ふられた」のである。

夜書いたラブレターを朝読み返したら、きつと、あまり馬鹿々々しくて、自分ながら顔が赤くなるにちがいないという言葉があるが恋愛に夢中になつている時に考えたことやしたことを後になつて考えてみたならば、同様、身の置き所もない位恥ずかしい気持になるものである。

以来、新吉は自分のして来たことのみにくさ、愚かさに顔も上げられぬ様な恥ずかしい毎日を送つて来たが、藤川先生が、この事件を知つていることに気がついてからは、藤川先生に顔を合せることもさける様にしていたのである。自然にサークルからも足が遠くなり、除名された様な形となり、自分でもそのつもりでいたのであるから、今年の初詣に加われないのは当然であつた。自分の招いた当然のむくいであるとは思つたが、これは矢張り新吉にとつては、さびしいことにちがいなかつた。友人達が初もうでをうわさし始めると、新吉は暗い顔をしてそつと話し仲間から外れてしまうのであつた。

◇　◇

雪のふるある日、どうしても藤川先生に顔を合せねばならぬ事が起きた。あれ以来、サークルの人達や先生とも、顔を合せない様にと心がけて来た新吉であつたが、今度ばかりはどうにも避けられぬと知ると、覚悟を決めて出かけて行つた。行く先は県立図書館の会議室。市内高校の文芸座談会であつた。

おくれて入つた新吉の顔は、以前のサークルの仲間から一齊に視線を浴びせられている様に感じた。小さくなつて、片隅にかしこまつた苦しい二時間を終り、顔をふせる様にしてそゝくさと帰ろうとする新吉の肩に重く手がかかつた。振り返つた新吉ははつとしたが、すぐに視線を落してしまつた。背後には藤川先生がおだやかな微笑を浮べて立つていたのである。

「随分君の顔も見なかつたが、どうしてるね、たまには家にもやつて来給えよ」

「行くことの出来ないこともあります」こうぽつりといつた新吉は一刻も早くこゝをぬけ出したかつた。

「今年もやがて暮れてしまう。例の通り来年も元朝まいりをやろうと思うが……。今年はぼくも仲間に入れてもらうから、君も是非来給え、君の顔が見られないとさびしいからね」横目をつかつた新吉の視角に、二人の話し等知らぬ気にサークルの仲間はむこうのストーブの方で話しをしていた。

「来給えね、そうして又二日にはカルタ取りを一緒にやろう」藤川先生の顔はあくまでもおだやかでその声には慈愛が満ちあふれているようであつた。

大体思春期に入つたばかりの子供の恋愛なんて、虫垂炎みたいなものである。恋愛という不具な的虫垂が消えてしまえばどんなに傷跡が大きくとも縫い合せ方によつては早く治つてゆくものである。例の事件が原因で、新吉がサークルから離れて行つた事を知つた藤川先生は、この様な状態の新吉に与える心理的影響を心配して新吉にどういつたのである。

例の事件以来、半年もたつ今では、サークルの学生達も新吉のことをとりたてて噂しなくなつていた。否むしろI新吉の双方に、各々異つた意味での同情さえもつようになつていたのである。

そんな事情は無論新吉の知る所ではない。ただ、新吉は物に感じ易い青年である。目からどつと涙があふれて来た。大きくうなずくと一礼してその場を飛び出し、一気に暮れかかつた吹雪の町を家にかけて帰つた。

◇

元旦も、もうすぐである。

勿論元朝詣に行くつもりはなかつたが、それでも、新吉の心は晴ればれとしていた。

今日もまた、雪がふつている。

（終）

駄弁

宮手毅

宮手毅

色々なことについて書いて見ようと思う。学校生活のさまざまなこと、特に五日制の反省やら、石桜会の活動…。

断つておくが、今非常に頭の中が混乱しているので、書くことも書いた文脈もたどたどしいに違いない。三日間の卒業試験だつたがやはり試験となると頭のどこかでそれが気にかゝるので…もつとひどい事は、卒業写真だ寄附金だとその集金のまどわしさ…。

試験というと「試験制度の是非」という様な論題で、先程高二では学級討論会を開いたことがあるがやはりこの問題には相当考え直すべき点がないでもない。特に及落や単位に関係する一年四回だけの定期試験という点や、実力促進と関連づけて見るときの試験制度などは確かに考え直すとまではいわなくとも、何かのついでに考え附け加えて見る必要がありわしないか。試験の如何に拘わらず勉強ということは極く普通の事柄に過ぎないのであるが、併し事はそうそう簡単に理想に近づくものではない。この点に関して特に考えさせられることは、何かにつけて伝統の重みがまだ本当に根を下ろしていないということである。

傳統ということが出たが、ここで一寸した伝統論を述べて見よう。簡単にいつて「人間の表象のうちに入り、追憶のために伝へられているもの」が伝統なんだそうである。伝統は、単なる遺物と区別されて、現在もなほ生きているものを意味している。遺物か単に客観的なものに反して、伝統は常に主体的に把握されるものである何れにせよ主体的に把握されることによつて現在化されるものでなければならぬ。伝統は人為的に作られるものであろうし、そのよいわるいは、その主体となる者の伝統に対する考え方の如何によつて左右されるものである岩高、岩中に似合しい伝統は良悪に関係なく幾つかあるが、特別にとり立てゝうほどの伝統といわれると、どうも解答に困りはしないか。伝統！それはそのまゝ、その共同体の[illegible]を表わし、その内容を教えるものだといつたら少し言葉が過ぎているだろうか。新らしい伝統、新らしい校風、新らしい学校生活、私が諸君に期待するのは、これのみである。

さて五日制の問題であるが、結論的にいつてそんなに影響がなかつたということである、がある事柄には必ず良かつた点、悪かつた点があるものである。だから良い点が、悪い点を縦い越しているか否かに依つて、その賛否の方向を取ればよいのである。悪い点を挙げれば、反面良い点が明らかになると思うから、こゝには特に目立つて悪かつた点を挙げて見よう。先ず第一に生活…特に校外生活…における一面であるが、やはり予想通り「睢漫然と遊び暮す」という結果がどうもあつた様である。これには色々理由があるが家庭の理解、社会の理解、一方公共施設の点などまだまだ十分行き届いていない様に思える。時期尚早ということの一理もこゝでうなづけると思うが、かといつて、良い面を見殺しにするのも堪えられないことだつたのである。何れにしろ良い面で悪い事を駆逐出来るものなら、それは実行に移すだけの価値があるのである。

色々書き難いのであるが、この辺で、石桜会のことに話を移そう。大体何時もいう様に生れる必要があつて生れた会であるということの認識である。そして何んらかの方法で引つぱり、又押して行かなければならぬものである。上にある者、それを押すもの、これらが一体になつて初めて円滑な活動を始めるのである。特に本校の生徒会は、中、高を一本にしたものであるため、運営の面その他すべてに、自ら、他と異なるところがあるのであるが、これを悪い方に向けないで良い方へ引つぼつて行けばよいのである。

大体総務委員会だけ見ても、一ヵ月一回の定例会議、更に臨時の会合を加えて、少くとも三四回今年度は実に二十数回の会合を行つているのである。これらの会合は直接間接、会員の要求によつて開かれたものであり、大小に拘わらず、諸君の生活に直接関係あるものばかりである。すべて価値のある行いはそれがそのまゝの形として表面に表われることは極く稀であつて、長い年月に亘り、又忍耐により、初めて効果として表われるのである。さて限られた紙数は超過したが、卒業でもあるし、会長をやらしていただいた一人として、御協力を感謝し、諸君の健康と栄ある前進を祝福して別れたい。

学生映画連盟

市内学生（高校、大学）が映画研究を目的として集つているのがこの学生映画連盟である。現在加盟校は十九校、会員数も実に千九百名の多きを数えている。岩手高盛岡校、高松高の三校が脱退したが岩手高も個人単位として参加、盛岡校も既に前委員を中心として続々再加入しているので名実共に全盛岡の学映連となつている。昨年来、評論家の清水晶やセントラルの土屋太郎氏等を招いての座談会や、特別映画鑑賞会や、合評会等々に活躍、その存在も大きく認められているが、今年になつてからは二月二十五日第一映画劇場で大会（総会、映画鑑賞会）を開いた外QGからも伸びゆく若葉の時間に採り上げられて放送される。

この学生映画連盟は全国的なつながりをもち、全国学生映画連盟の名の下に結集していて、毎年四月初めに東京又は京都で全国大会が催され映画文化の向上に大きな役割を果たしている。尚映画連盟は他の弁論や演劇等の連盟と異なり部を対称としたものではなく個人を対称としているものである

本校委員は昨年夏まで高三田村五日市、高二村上の三名であつたが、映画部が単なる切符売り部でしかないとして廃止が叫ばれている、現在高二村上等を中心として学映連との関係が注目されている（ちなみに、本県の映画連盟は水沢学映、及び盛岡学映連の二つである）

新聞部便り

昨年夏全国高校新聞部連盟（本校は不参加）及び私立高等学校新聞連絡協議会（オヴザーヴァーとして出版委員長を派遣）の二つが関東地方を主体として発足したが、これ等はともに、とかく学校新聞の内容その学校だけの記事に限定されることから脱し各学校新聞に表われた校内世論文教政治に反映させる目的をもつて設立されたものである。これによつて石桜新聞も全国各地の新聞部と横の連絡をもち得ることになつたのは十一月ころからで、以来新聞の交換、通信交換を行なつた学校数は総計三十七校にも達した。その主なものは、北海道2、東北8県内19、関東8、関西2、山陽3、九州3、四国1、山陰2である

この他大学では京都大学、慶応大学、九州大学の三校がある。

他の県内での特異なものとして学校新聞ではないが、少年刑務所の新聞「きたかみ」がある。その他県外のニースソースとして石桜新聞の紙面をうるほしているのは、日本教育新聞、日本読書新聞がある。

県内の連絡新聞

盛岡高校新聞　北光タイムス　かしわ　白ゆり新聞　盛岡市立高校新聞　よそおい　遠高新聞　佐高新聞　佐中新聞　宮古高校新聞　黒高新聞　佐城新聞　和賀高新聞　水高新聞　福高新聞　雁　尾崎高校新聞　一高新聞

新聞の出來る迄

職員室、各委員会、HR、各部の協力によつて取材された原稿は編集部員によつて取捨選択され、見出しがつけられる、出来上つた原稿は一面もの二面、三面、四面ものと分けられこの記事はどこに入れる、これはそこにというわゆる編集が行われる。編集された原稿はすぐ岩手新報社へもつて行かれる。新報社では原稿を見て活字をひろう（注、活字には明朝、ゴジックの二種あり）ひろわれた活字は校正をして誤りを訂正する、いよいよ最後に大組といつてこちらの指定した通り活字がならび写真が入る、組まれた活字は印刷機にかけ印刷される、かくてインクの香が匂う新聞が諸君の手元に配布されるのである

部員募集

今度、出版委員会に新聞部と会議部が出来た事は諸君熟知の所であるがこれは同委員会々員のみではなくして高、中、問わず有志は入部出来るものであるから入部希望者は新聞部は高二大矢、会議部は佐々木まで申込む事

最近の購入図書

漱石全集（11）
中学全集（27）
古代和歌（五味智英）
湖畔の家（ヘルマン・ヘッセ）
栄光のかげに（高杉一郎）
キリストの生涯
森鴎外作品集（1－5）
社会思想辞典
世界文化史大系（北川三郎）
国語の将来（柳田国雄）
名曲のアルバム
名曲をたずねて

編集後記

◇〃卒業式前に必ず出せ〃との命令？にアワてて取材編集を行つたが企画性に乏しい上に不慣れなため御覧のようなソマツな新聞になつてしまつた、高三の諸兄よ…許してくれ（佐々木剛）

◇日報でおなじみの内村幸助氏に挿絵と文を頂いた、また吉見先生にもお忙しい所お願いして書いて頂いた、どうもありがとうございました（佐々木俊）

◇今度もよい写真がなかつた、生徒諸君で「これはよい写真だ、新聞にのせたらどうか」と思うようなのがあつたらどしどしお知らせ下さい（中沢隆史）

◇来春よりは編集、取材、写真の三部を更に充実したものにしたいと思つているから入部希望者は二C佐々木剛まで申込まれたい

◇短期間で辛い取材、編集だつたもう赤ペンを見ると頭がガンガンするようになつた、よりよい新聞は諸君の協力によつて出来る、PTAの方でもよろしく御援助下さるよう希望する、では来春まで（大矢哲夫）

岩手高中学校生徒募集

出願　二月廿五日から三月廿日迄
考査　三月二十六、七、八日
募集人員
中学　一年　百五十名
　　　二年　若干名
　　　三年　〃
高校　一年　五十名
　　　二年　若干名
　　　三年　若干名
考査科目
中学　国語、社会、数学、理科
高校　国語、社会、数学、理科
　　　英語
尚高校は総合テスト受験の要なし
判定　在学中の調査書、本校で行う考査（口答、筆答）身体検査の三部を総合して合格か否かを決定する

文具としおり
トンボ鉛筆
みつびし鉛筆
ヨット鉛筆
ライオンインク
オリオン絵具
オリオンポスター
カラー
壁画しおり
良品をなるべく安く賣る店
盛岡市仁王通り
小原精撲堂
TEL 185

印刷業務
一般事務用品
一般文房具
紙製品卸
新陽社
佐藤盛
盛岡市十三日町
TEL 二三六

事務用文房具
東湖書房
盛岡市大通り二丁目
TEL 一三三番